

東葛まいにち 8月28日

かかりつけ薬局の 知っ得情報

(20)



『ジェネリック』

『ジェネリック』って、本当に大丈夫なの？『地域の高齢者サロン』などで薬についての講演をすると、話した内容に関わらず、こんな質問を受ける。

医療費を抑制しようとする国も薬剤師もジェネリック医薬品の使用をお願いしているが、一番お薬を使っている高齢者の多くは、若い人に比べて服用に抵抗があるように見受けられる。

薬剤師は、交付する薬について、患者さんの容態や生活の質の変化、副作用のチェック、今後発生するかもしれない副作用の予防や対処法の説明、一般用医薬品や要指導医薬品の服用の確認など、管理することが山ほどある中、ジェネリック医薬品についての説明は『成分が同じで、負担金の少ない医薬品』と、粗略な説明しかしていないためであらう。

して「ジェネリックでお願いします」と申し出てくだされ。…と回答している。◆また、『ジェネリック医薬品の使用の意志は、「今日のお昼は何を食べようか」のようにその都度変化するものですから毎回受付時に伺います。難しく考えず、気楽に使用してみましょー」と付け加えている。

◇

◇

高齢者は特に、「かかりつけ薬剤師」を決め、すべての薬や病気の予防も含めた健康について、常に相談できる環境を整えることが大切である。そのために薬剤師も地域の高齢者の集まる場に向いて薬の話をしている。超高齢社会となった近年、薬という『物』を通して、『人』との関係をつくることが医療に求められてきている。

担当薬剤師 澤田康裕
問い合わせ 047-3603600 一般社団法人松戸市薬剤師会



ウエルシア薬局
松戸高塚店

